

ヘッドレスCMSとは? 従来のCMSとの違いやメリット

そもそも「CMS」とはWebサイトのコンテンツを管理・配信するシステムを意味しますが、その機能は大別すると、コンテンツの表示画面であるフロントエンドと、コンテンツの管理画面であるバックエンドに分けられます。

従来のCMSはWordPressに代表されるように、フロントエンドとバックエンドが一体型になっていますが、ヘッドレスCMSは表示画面であるフロントエンドを切り離して、コンテンツ管理を行うバックエンド機能のみに特化しているのが特徴です。

本資料ではヘッドレスCMSの機能や特徴、メリットなどを紹介します。

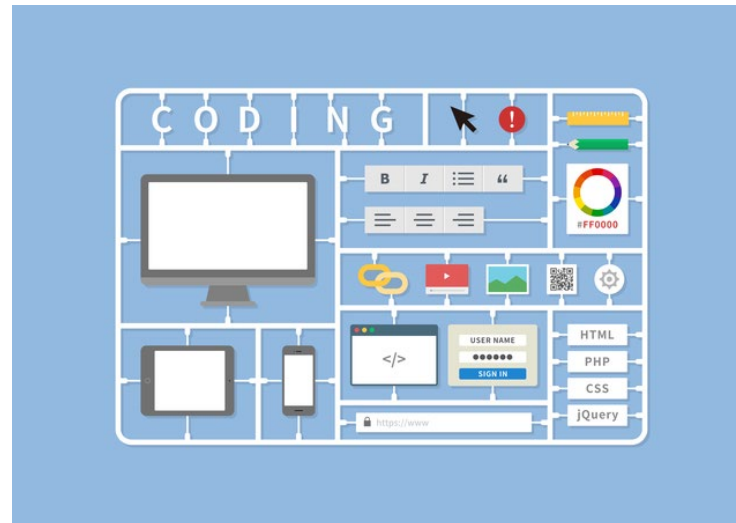


ヘッドレスCMSとは?

ヘッドレスCMSとは、CMS(Content Management System)の一種で、フロントエンド(ヘッド)を持たないCMSです。

そもそも「CMS」とはWebサイトのコンテンツを管理・配信するシステムを意味しますが、その機能は大別すると、コンテンツの表示画面であるフロントエンドと、コンテンツの管理画面であるバックエンドに分けられます。

従来のCMSはWordPressに代表されるように、フロントエンドとバックエンドが一体型になっていますが、ヘッドレスCMSは表示画面であるフロントエンドを切り離して、コンテンツ管理を行うバックエンド機能のみに特化しているのが特徴です。



従来のCMSとの違い

WordPressなどに代表される従来のCMSは、コンテンツの作成から管理、保存や表示までの機能がすべて備わっています。

管理画面からテキストや画像など必要なデータを入力すれば、HTMLやCSSを使ったコーディングを行わずともWebサイトを作成できるため、コーディングの知識がほとんどない人でも、手軽にWebサイトを作成できる点が大きなメリットです。

そして従来のCMSは、コンテンツの作成・管理を行うバックエンド機能と、コンテンツの表示を行うフロントエンド機能を常に一括で管理しなければならなかったため、「カップルドCMS」とも呼ばれています。

一方、ヘッドレスCMSはバックエンド機能のみのため、フロントエンド部分は別途HTML・CSSなどで構築しなくてはなりません。Webサイトを作成する際は、APIによってバックエンドのデータをフロントエンドに出力して管理・運用を行います。



ヘッドレスCMSが必要とされる背景

近年はDX(デジタルトランスフォーメーション)に取り組む企業が増えていますが、その中でヘッドレスCMSへの注目も高まっています。ヘッドレスCMSの需要が高まっている背景は主に以下の通りです。

従来型システムの変更の難しさ

従来のCMSはフロントエンドとバックエンドが一体化しているため、システム変更の際は双方の整合性に注意して、変更範囲を見定めなければいけません。そのため、フロントエンドとバックエンドのどちらかのシステムを大幅に変更するといったことはできず、もしシステム変更を加える場合でも、お互いへの影響を考慮して一定範囲に留める必要があります。

しかし、ヘッドレスCMSの場合はバックエンドとフロントエンドがそれぞれ独立しているため、この相互制約性がありません。

柔軟にシステム変更や改修がしやすくなったことで、必要に応じて迅速にシステムをアップデートできるようになるのは、その時々状況や技術に合わせて柔軟にシステム変更をしたい企業にとって大きな魅力です。

Webサービス強化の動き

多くの業界でWebサービスの強化が進んでいることも、ヘッドレスCMSの必要性が高まっている理由として挙げられます。

特に新型コロナウイルスの感染拡大があった2020年以降は、感染予防の観点からECサイトを通じての買い物や、オンラインセミナーが増加し、オンライン上でサービスを利用する機会が大きく増えました。それに伴い、多くの企業がさまざまなサービスをWebで展開するようになりましたが、オンライン上でのやり取りが増えた今、競合他社への優位性を獲得するには、Webページの表示速度の向上や入力の反応速度の向上など、UX(ユーザーエクスペリエンス)を重視した開発をする必要があります。また、Webサイトはハッカーからの攻撃の標的になりやすいため、セキュリティの堅牢性も重要なポイントです。

ヘッドレスCMSでは、従来のCMSに比べ必要なファイルのやり取りが少なく、ページの表示速度も格段に上昇します。また、ヘッドレスCMSはサーバー攻撃の対象となりやすい動的ファイルを持たないため、セキュリティの安全性も高いといったメリットがあることから、ヘッドレスCMSの需要は大きく高まっています。

クッキー規制への対応

クッキー(Cookie)規制の動きが強まっていることも、ヘッドレスCMSの需要が高まっている理由のひとつです。

クッキーは、WebサイトからユーザーのスマホやPCのブラウザに保存される、閲覧履歴や入力情報といった各種データを指します。

今までWebサイトを運用する企業は、クッキーを使ってサイトにアクセスした各ユーザーの情報を収集し、ユーザーにパーソナライズされた広告を表示したり、広告の効果測定を行ったりと、クッキーに保存された情報をWebマーケティングに役立ててきました。

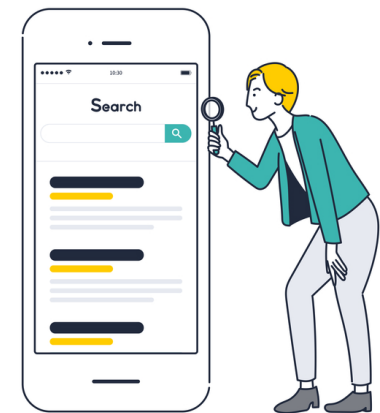
しかし近年は、欧米など世界各国で個人情報の保護が強化されており、ユーザーの個人情報を一時的に保存するクッキーの発行は、規制されるようになりました。そのため、クッキーを用いた既存のマーケティング施策は大きく転換を余儀なくされています。

なお、クッキーは、訪問したWebサイトと同一ドメインが発行する「ファーストパーティークッキー」と、訪問したWebサイトとは異なるドメインが発行する「サードパーティークッキー」に大きく分けられます。

どちらも規制の動きは高まっていますが、今後運用が全面規制されるのは、Web広告に利用される「サードパーティークッキー」です。

今後サードパーティークッキーが利用できなくなった場合、企業が直接収集するファーストパーティーデータの重要性は、今以上に高まります。

そしてヘッドレスCMSは、ユーザーデータ収集に使われてきたクッキーの代替手段として注目されています。



ヘッドレスCMSのメリット

上記の理由から注目を集めているヘッドレスCMSの、主なメリットは以下の通りです。

フロントエンドの自由度が高い

ヘッドレスCMSはフロントエンドとバックエンドがそれぞれ独立しているため、フロントエンドにおいてシステム変更を加えても、バックエンドに影響を及ぼすことはありません。

従来型であればフロントエンドとバックエンド、双方の影響を気にしながらある一定の範囲でシステム変更を行わなくてはなりませんでした。

しかし、ヘッドレスCMSは影響を気にせず、それぞれ好きなタイミングでスピーディーに開発・メンテナンスを実施できます。



マルチデバイスに対応しやすい

ヘッドレスCMSはコンテンツ管理に特化しているため、各種フロントエンドを選んで自由に連携できる点もメリットのひとつです。

PC・タブレット・スマホといった各デバイスや、android・iOS用のモバイルアプリなど各ユーザーの閲覧環境に合わせたコンテンツ配信が可能なため、開発側はデバイス別にUIを調整するといった作業の負担が減り、ユーザー側は使っているデバイスに合ったUIでサービスが利用できます。



開発のスピードが速くなる

ヘッドレスCMSでは、フロントエンドとバックエンドが分離しているため、それぞれの担当を分けて業務を行えます。

コンテンツ編集者はコードを気にせず担当するコンテンツだけに集中でき、開発者は柔軟にツールやフレームワーク、言語を選択して作業することが可能です。このようにヘッドレスCMSを導入すると、コンテンツ編集者と開発者はお互いの責任範囲を明確化し、並行して作業できるようになるので、開発スピードを上げられます。



UX向上につながる

従来のCMSは、フロントエンドを生成する際に動的ファイルとコンテンツ間でデータをやり取りする仕組みになっているため、表示速度が遅くなりがちでした。その点、ヘッドレスCMSでは静的ファイルをシームレスに使う形なので、表示速度を早くできます。

表示速度が速ければユーザーの閲覧時のストレスは減少し、それに伴いWebサイトからの離脱も少なくなります。表示速度の速さはSEO効果の向上にもつながるので、数多くのメリットが見込めるでしょう。

セキュリティリスクを軽減できる

ヘッドレスCMSは、セキュリティ面の安全性が高い点もメリットのひとつです。従来のCMSで使われていた動的ファイルはサイバー攻撃の標的になりやすく、セキュリティ面の不安がありました。

しかし、ヘッドレスCMSは動的ファイルを使用しないため、脆弱性対策の範囲も従来に比べて小さくなり、従来のCMSに比べセキュリティリスクを大幅に軽減できます。



これからのヘッドレスCMSに求められるものとは

上記のように、ヘッドレスCMSは従来のCMSに比べてマルチチャネルへの対応が容易で、Webの開発・運用を柔軟かつ効率的に進められる点が大きなメリットです。

加えて、今後のヘッドレスCMSには、各ユーザーのニーズを満たしたコンテンツ表示やコミュニケーションが求められます。

そのためには、各ユーザーのニーズ把握を目的とする顧客情報の収集・活用やデータ連携の機能や、柔軟な拡張性が備わっていないとなりません。

特に顧客情報に関しては、近い将来に訪れるクッキー廃止に備えて、ファーストパーティデータ(自社データ)である顧客IDを活用していくことがより重要になっていくと予想されます。

具体的な機能や仕組みについては後述しますが、今後のヘッドレスCMSには顧客一人ひとりとつながる、デジタルコミュニケーション基盤としての役割が求められるでしょう。



ヘッドレスCMS対応の「SITE PUBLIS Connect」

SITE PUBLIS Connect

上記のような、これからの時代に求められる機能を備えた次世代型ヘッドレスCMSが「SITE PUBLIS Connect」です。SITE PUBLIS Connectを導入することで、企業は以下のようなメリットを得られます。

IDベースでデータ活用が可能

SITE PUBLIS Connectは、CRMやSFA、MAなどと簡単に連携させ、クッキーベースではなくIDベースで顧客情報を管理できます。たとえば、CRMツールと連携させれば、Webサイトを訪問する顧客のアクションからその購入可能性をスコアリングすることも可能です。

購入データとログインIDが紐づいていれば、その顧客の平均購買単価や購入頻度なども可視化し、LTVを向上させる施策を的確に実施可能です。このように、ヘッドレスCMSはWeb運用の改善や効率化はもちろん、CRMをより活用していくためにも役立ちます。

継続的なUX向上を実現。

継続的なUX向上を実現

上記のデータ連携によって顧客のニーズを正確に把握することで、ユーザーが求める最新の情報をシームレスに届けることが可能です。ユーザーの欲しい情報を確実に、工数も削減したうえで自動的に届けることによって継続的にUXを改善し、LTVを向上できます。

また、SITE PUBLIS Connectは必要な機能をスピーディーに追加できるオンデマンドデリバリーを実現します。

欲しい機能を自由に追加していくことも、初期設定のまま手軽に運用していくことも、自由に選択可能です。SITE PUBLIS Connectを活用することで、企業はDXを加速し、流動的に変化していく課題への対応力を身に付けられます。

ヘッドレスCMSを導入することで、マルチデバイスへの対応力やWeb運用の効率性を改善し、効果的にユーザーのUXを向上できます。現状のWeb運用に課題を感じている企業の方は、ぜひ次世代型ヘッドレスCSM「SITE PUBLIS Connect」の導入をご検討ください。

資料ダウンロードありがとうございました。

本資料のご不明点やご相談がございましたらお気軽にお問い合わせください。

ご相談や見積もり希望の方

STEP1.内容入力	STEP2.内容確認	STEP3.送信完了
下記フォームに必要事項を入力後、「確認画面へ」ボタンを押してください。		
お問い合わせ内容	<input type="checkbox"/> 資料請求する <input type="checkbox"/> 個別相談する <input type="checkbox"/> 見積依頼する <input type="checkbox"/> トライアル希望する	
姓名	例) 山田 太郎	

相談してみる

<https://publis-connect.jp/contact.html>

無料Webセミナーに関心ある方

再注目されるTwitterを徹底解剖！ SNSで数々のヒットを生み出したプロのマーケターに聞く
いま知りたい
最強のTwitterマーケティング 攻略セミナー

【無料】オンラインセミナー
produced by SITE PUBLIS

開催日:2023.8.9

再注目されるTwitterを徹底解剖！ SNSで数々のヒットを生み出したプロのマーケターに聞くいま知りたい、最強のTwitterマーケティング攻略セミナー

無料 WEB 受付中

【無料】オンラインセミナー
SITE PUBLIS

コンテンツを一元管理し、マルチチャネルで最大活用するには

開催日:2023.7.13

コンテンツを一元管理し、マルチチャネルで最大活用するには

7.13 [木]
11:00~11:30

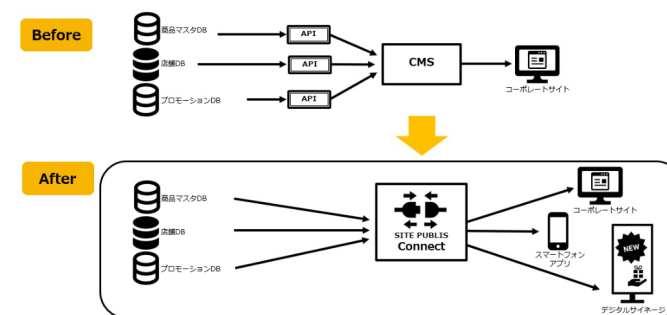
無料 WEB 受付終了

セミナーを確認する

<https://www.sitepublis.net/topic/seminar.html>

製品の事例を知りたい方

- ・膨大な商品データ、店舗情報、プロモーションデータなどがある
- ・配信先が多岐に渡る (Web、アプリ、デジタルサイネージなど)



製品の事例記事を見る

<https://publis-connect.jp/scene.html>

※ボタンが押せない場合はボタン下に記載しています各URLにてご確認下さい。

お問い合わせ

企業名
株式会社サイト・パブリス

TEL
03-6812-7152

MAIL
press@sitepublis.co.jp

WEB
<https://www.sitepublis.net/>

会社住所
〒102-0074
東京都千代田区九段南一丁目4番5号
泉九段ビル4階